

1. 目的

神奈川県高文連加盟校のすべての生徒が参加できる大会として位置付ける。生徒が自らの感性を生かして、題材を選びアナウンス・朗読・番組で表現・研究し、発表する。さらに多くの学校の生徒がさまざまな場で自分を表現できるように、大会を運営する。また生徒の主体性を尊び、大会順位にとらわれずに生徒間の交流を重視した大会とする。

2. 主催・主管

主催：神奈川県高等学校文化連盟
神奈川県高等学校視聴覚教育研究会
神奈川県教育委員会

主管：神奈川県高等学校文化連盟放送・情報専門部
(神奈川県高等学校視聴覚教育研究会 校内放送委員会)

後援：tvkテレビ・FMヨコハマ・ラジオ日本・朝日新聞社横浜総局・神奈川新聞社
毎日新聞横浜支局・読売新聞横浜支局・日本工学院専門学校・神奈川工科大学

3. 参加資格

2016年11月現在、県高等学校文化連盟加盟校に在籍している(「部員」である必要はない)1・2年生とする。ただし情報部門への参加は3年生も可とする。

4. 日時

2016年11月20日(日) 9:00～17:00

- ・顧問打ち合わせ 9:00開始
- ・作品提出(部門別受付) 9:00～9:20
- ・審査 予選(アナ・朗のみ) 9:30～12:00
- ・情報部門審査 9:30～15:00
- ・審査 アナ朗本選出場者発表 13:00
- ・審査 本選(アナ・朗) 13:15～15:00
- ・審査 本選(AP・VM) 13:00～15:00
- ・閉会式 16:00～17:00

5. 会場：神奈川県立 神奈川総合 高等学校

6. 部門・参加本数・参加費用

	アナウンス	朗 読	オーディオピク チャー	ビデオメッ セージ	情報課題	情報自由
各校参加 本数上限	2本	2本	2本	2本	2本	2本
参加費用	無 料					

7. 決勝進出本数

アナウンス・朗読 各24人

発表は、13時より決勝実施会場受付にて行う。

8. 審査・審査基準

大会審査のため、大会審査委員長をおく。

各部門とも、役員校推薦の教員と特別審査員による審査とする。

特別審査員は、主催・主幹・後援各団体等より推薦されたものから選出する。

審査の観点に基づき、審査を行ない規定違反の場合、原則として減点・失格の対象となる。

詳細は、審査員および大会審査委員長の協議による。

9. 参加申込

期日：2016年10月8日(土)

会場：神奈川県立 神奈川総合 高校

時間：参加申込 13:30～14:15

参加対象者：学校代表生徒1名、審査補助生徒1名、顧問1名

提出物：□参加申込書(要校長印・顧問印)

□エントリーシート および エントリーシートが入力されたCD

参加申込書とエントリーシートは『集まれ放送委員会』のホームページからダウンロードしてください

注1) 提出物については、くれぐれも間違いや忘れ物のないよう、慎重に準備し、顧問の確認を受けること。

注2) 情報部門のみに出場する場合は、メールでのエントリーも可能です。

出場カードデータ、参加申込書データをメール送信してください。

・受付期間：10月1日(土)～10月20日(木)

・電子メールでの送信時には「校長印」は必要なし

・大会当日に校長印が押してある参加申込書を持参する。

校長印がない学校は大会に参加できません。注意してください。

送付先メールアドレス： h-kaifu@pen-kanagawa.ed.jp

情報部門のみに参加する学校は10月8日(土)の説明会への出席は必要ありません。

10. 大会当日の受付

総文祭部門受付 9:00～9:20

受付で学校代表1名がプログラムを受け取り、審査会場・番号を確認して

封筒・原稿(アナ・朗1部番組1部・情報はプレゼンファイルのみ)・CD-R・DVD-Rに記入する。

参加申込をメールで行った学校は校長印が押してある参加申込書を同封すること

封筒提出 9:00～9:20

記入を終えた作品封筒を、アナウンス・朗読・情報は各会場受付に、番組は総合受付横に提出する。

11. 表彰

教育長賞 アナウンス・朗読・AP・VM 情報総合1位

高文連会長賞 アナウンス・朗読 2位～6位、AP2位、VM2位～3位

相鉄賞 情報課題・情報自由 1位～4位(教育長賞を除く)

神奈川工科大学賞 情報課題・情報自由 1位

(教育長賞・高文連会長賞・相鉄賞は、1月実施の県高文連総合閉会式にて表彰)

奨励賞 アナウンス朗読 13位～24位、AP3位～10位・VM4位～10位

大会当日は受賞者には高視研会長賞を授与いたします

表彰数は参加本数により変動します

12. 上位大会への推薦

2017全国高等学校総合文化祭宮城大会(2017年8月3日4日実施)へ推薦されるもの

アナウンス・朗読 各3名 AP 1作品 VM 2作品

但し、同一校から同一部門に推薦される本数は1名・1本とする。

また、前年に全総文祭に推薦された生徒は、同一部門では推薦されない。

2017関東地区高校放送コンクール千葉大会(2017年1月29日実施)

アナウンス3組 朗読3名 AP 1作品 VM 1作品

但し、2017全国高等学校総合文化祭宮城大会へ推薦されたものを除く

2017IT夢コンテスト(2017年7月実施)へ推薦(書類審査免除)されるもの

情報部門各1位のもの。

13. 県高等学校総合文化祭放送情報部門諸規定

次年度の全国総合文化祭放送部門参加要領に準ずる。

全国総合文化祭放送部門参加要項(2017宮城大会) 参照

A アナウンス部門

内容：神奈川県内の地域の話題から、全国の仲間に伝える内容のオリジナル原稿を作り、発表する。

校内の話題は不可。

インターネットから題材を選ぶことは可とするが、**必ずその場所に行き、写真を取り、取材をして原稿をまとめること。**

JPEG形式のデジタル静止画像(1枚から5枚)を併用する。

写真は本人もしくは自校生徒が撮影したものとする。(インターネット等からの転用は禁止)

画像編集ソフトを用いて複数の写真を組み合わせたり文字を入れたりすることは可とする。

時間：1分30秒以内。番号、学校名、氏名を含む。

審査方法：実演発表形式の100点法審査とする。

計時：第1声より読み終わりまで

ラベル：CD本体に部門名・学校名・氏名を記入すること。

規格：JPEG形式デジタル静止画像(解像度1024×768ピクセルとすること)

ア) プロジェクター(1台)よりパソコンからデジタル静止画像を投影。

イ) 画像データはCD-Rにより提出。

ウ) 画像投影は発表者以外の自校生徒が操作。

エ) ファイル名は神奈北高校なら「kanakita01」「kanakita02」...と投影順に附る。

原稿：横置き縦書きワープロ打ちA4原稿を例(HP上に記載)の様に1部作成(計時用)して、

必要事項を表書きした封筒に入れる。

審査の観点

校内放送原稿は不可・神奈川との関連が読みとれない原稿は不可・取材したことが不明な原稿は不可

a) 原稿点 (素材の選び方・文章表現の確かさ・内容の深さ)

b) アナウンスの技術点(マイクの使い方・発声・発音・アクセント・イントネーション

・プロミネンス・テンポ・ポーズの取り方・内容把握・表現の仕方)

上位大会への派遣 全国大会は3名、関東大会は各2名ずつ3組派遣

B 朗読部門

内容：神奈川県にゆかりのある作家及び作品の中から原文のまま一部選んで原稿とする。

CDによる効果音やBGMを併用することができる。

デジタル静止画像は使用できない。

時間：2分以内。番号、学校名、氏名、作者および作品名を含む。

審査方法：実演発表審査とする。

使用CD：一本のCDに1作品分を再生順に録音したものとする。

再生：SE・BGM再生は発表者以外の自校生徒が自校から持ち込んだ機材を用いて操作する。

計時：第1声より読み終わりまで

ラベル：CD本体に部門名学校名氏名を記入すること。

原稿：「作品と神奈川県とのかかわり」を簡単に記入した制作意図を含めA4横置き縦書き

ワープロ打ち原稿を例の様に1部作成(計時用)して、必要事項を表書きした封筒に入れる。

審査の観点

「神奈川県とのかかわり」が不明な原稿は不可

a) 原稿点 (作品の選び方・朗読部分の抜き出し方・適切な抽出量)

b) 朗読の技術点(マイクの使い方・発声・発音・アクセント・イントネーション・プロミネンス
・テンポ・ポーズの取り方・内容把握・表現の仕方)

上位大会への派遣 全国大会・関東大会それぞれ3名 合計6名派遣

C オーディオピクチャー（AP）部門

内容：神奈川県に関する話題を取り上げ、それを全国に伝える未発表の作品。

CDによるステレオ音声とJPEG形式のデジタル静止画像（25画像100MB以内）を併用する作品。ドキュメンタリー形式、ドラマ形式など手法は問わない。

画像は写真のほかに、絵や文字を使用することができる。

他に権利のある著作物を使用する場合は所定の許諾をとり、原稿に添付すること。

時間：5分以内。

使用CD：一本のオーディオCDに1作品分を再生順に録音。また画像は別のデータCDに保存
オーディオCDと画像CDが区別できるようにCDに明記すること。

録音・再生：ステレオ再生。

計時：オーディオCDの音声が始まったところから、オーディオCDの音声を終了したところまで。

ラベル：CD本体に部門名、オーディオ・データの別、学校名、氏名を記入

審査方法：音声を流しながら、自校生徒によるスライド操作によって発表し100点法により審査する。

原稿：A4用紙に例に示す様に1部作成して提出

規格：JPEG形式によるデジタル静止画像。

ア) プロジェクタは1台。

イ) 25画像以内、

ウ) 画像データはCD-Rに保存。

エ) ファイル名は神奈北高校なら「kanakita01」「kanakita02」...と投影順に附る。

オ) 静止画像のサイズはWXGA（1366×768ピクセル）またはXGA（1024×768ピクセル）

審査の観点

a) テーマ点(素材の選び方・APという特性を生かした題材・効果的な表現)

b) 製作の技術点(製作の手法・取材の方法や努力・企画と構成・演出と編集・撮影、録音の技術・アナウンスやナレーションの技術・音楽や効果音の使い方・画像に合った音声の使い方)

音源

権利が現存している音源については、正規の手段を用いて各学校で許諾申請をすること。

本大会においてはネット音源も著作権フリー確認がとれたものについては使用を認める。

上位大会への派遣 全国大会・関東大会各1組2名合計2組4名派遣

D ビデオメッセージ（VM）部門

内容：神奈川県に関する話題を取り上げ、それを全国に伝える未発表の作品。自校オリジナルのビデオ作品。

時間：5分以内。前後に5秒のテストパターン（形式は自由）を入れる。

計時：番組本体についてのみ行なう。

規格：DVD-Rビデオ形式とする。場合によってはminiDVも可とするが、再生機を持参すること。神奈川大会ではブルーレイは不可とします。

ラベル：DVD本体にマジック等で部門名・学校名・氏名を記入。

原稿：A4用紙に例に示す様に1部作成して提出

審査の観点

a) テーマ点(素材の選び方・VMという特性を生かした題材・効果的な表現)

b) 製作の技術点(製作の手法・取材の方法や努力・企画と構成・演出と編集・録音、録画の技術・アナウンスやナレーションの技術・音楽や効果音の使い方・などビデオ制作にかかる製作技術)

音源

権利が現存している音源については、正規の手段を用いて許諾申請をすること。

本大会においてはネット音源も著作権フリー確認がとれたものについては使用を認める。

上位大会への派遣

全国大会は2校4名、関東大会は1組2名、合計3組6名派遣

E . 情 報 部 門

a . 発表方法

- (1)発表内容は、次のテーマから題材を選択しプレゼンテーションにまとめる。
課題部門 . 「高校生が考える 10 年後 20 年後の未来社会について」
自由部門 . 「今を生きる高校生が考える諸問題とその解決法」
進路のこと、学校のこと、友情について、自分を取り巻く社会問題など
高校生の発想で自由にテーマを決めて発表してください .
- (2)発表時間：準備・片付けを含めて 8 分以内とする。
- (3) 参加形態：すべて団体扱いとする。団体名の届け出がない場合は「学校代表」とする。
- (4) 発表形式：スクリーン 1 画面によるパワーポイント形式によるプレゼンテーションとする。
ビデオをスライドに含めることは可とするが、それが主体となる発表は不可とする。
1 本につき発表者は3名までとする .
- (5)補足：会場には、以下の発表機器を用意する。
- a. ノートパソコン 2台
 - b. Windows 7 SP1 または Windows8.1 または Windows10
 - c. パワーポイントビューワーで再生できる形態とする
 - d.マイク2本
 - e.指し棒（またはレーザーポインタ）

b . 審査基準

- a. 発表の内容について（研究・調査を行った上での優れた内容であったか）
- b. 発表について（内容を的確に伝えることができたか）
- c. プレゼンテーション資料について（発表に適した表現豊かなスライドが作成されているか）

c . その他

著作権処理は、各学校で大会開催までに行い、大会運営時には問題の無いように適切に処理すること。

特に、音楽素材を使用する場合は、著作権フリー素材を用いて作成すること。

他のコンテスト等に応募した作品を、このコンテストにそのまま出品することはできないので注意すること。

C D - R にプレゼンテーションデータを保存して、提出してください

台本・スクリプトの提出は必要ありません。

スライドを用いて、自分の言葉で会場にいる皆さんに説明してください。

d . 上位大会への派遣

神奈川工科大学 I T 夢コンテストには両部門各1組合計2組を派遣する。

14. 原稿に関する規定

原稿はA4用紙に例に示すように作成する。

作品1人(1本)についてアナ・朗・番組部門すべて1部提出する。(計時のため)

情報の台本は必要ない。

原稿と 作品 をA4用の封筒に入れる。

封筒表書の見本

<アナウンス、朗読>				<AP・VM・情報>					
作 品 名	作 者 名	氏 名	学 校 名	朗 読 部 門	制 作 代 表 者	再 生 時 間	タ イ ト ル	学 校 名	A P 部 門
こ こ ろ	夏 目	高 橋	県 立		神 奈 川 次 郎	4 分 40 秒	お お 青 春	県 立 神 奈 川 高 等 学 校	[22] 番
	漱 石	圭 三	○ 高 等 学 校	[13] 番					

注意1 アナウンス部門は、作者名・作品名は不要。情報部門の再生時間は不要。

注意2 [] のなかは、大会当日、プログラムを見て記入する。

15. 諸注意

大会当日の運営に関することは、すべて引率教員を通して本部に申し出ること。

作品の返却は、閉会式後に行う。

16. 著作権処理

(1) 写真の著作権

アナウンス・AP・情報部門に用いる静止画は、制作者もしくは自校生徒が自ら撮影した画像とする。また自分が手書きで書いた画像をスキャンして取り込んだものも可とする。また一画面に複数の写真を合成したり、文字を入れて作成した写真も1枚と数え、使用できる。インターネットからの画像はそれが発表の主体となる場合は認めない。インターネットからの画像や、他者に権利があると思われる画像を使用する場合は、文書による使用許諾を必ず取ること。

(2) 音源の著作権

朗読・AP・VM・情報に用いる音源は、原則として著作権フリー音源とする。ネット上の著作権フリー音源も使用可とする。権利を有する音源を使用する場合は、正規の手段を用いて各学校で許諾申請をすること。